

音楽

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な音楽の知識を身に付け、音楽の構造や曲想、歌詞の内容などとの関わりを捉えながら歌唱表現できること。	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、思いや意図をもって表現すること。

学年	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を見る習慣が乏しく、音符や休符の種類、音楽記号の理解に課題がある。ア 曲に込められた思いや意図に注目できていない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 常に楽譜を意識するような声かけと、楽譜に色付けやメモをとらせる習慣を付けさせる。プリントを活用して基礎・基本の定着を図る。ア 曲には作詞作曲者の意図があることを常に伝え、その意図が読み解けるようなプリント課題を出す。イ 	2学期より実施	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜と筆記用具を持ち練習をする習慣がついた。また、プリントで基礎知識を確認し、楽譜の注目すべき場所もわかり、音楽記号等の理解ができた生徒が多かった。ア プリントの課題を捉えることで、作詞作曲者の意図を読み取る意識ができた。イ
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 音程が定まらない生徒が多い。ア 曲に込められた思いや意図を生かした表現をするための知識が少ない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に声を出す活動を取り入れる。また、教師の提示した音程に合わせる練習から、ピアノの音に合わせる練習を段階的に行っていく。ア 歌唱表現における表現方法として、発声練習と共に顔の筋肉を使った表現練習を取り入れる。イ 	2学期より実施	<ul style="list-style-type: none"> パート練習で、部分的に声を合わせる練習をして音程が安定した生徒もいるが、難しい生徒もいた。ア 音程が安定した場合、顔の筋肉を使った表現の工夫につながった。イ
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱に対して消極的な生徒が多い。ア 曲に込められた思いや意図を生かした表現の工夫が乏しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの歌唱の録画やプロの演奏の鑑賞など、視覚的な指導を取り入れる。ア イ 歌唱表現において、男女別のグループ活動を多く取り入れる。また、発声練習と共に顔の筋肉を使った表現練習を取り入れる。ア 	2学期より実施	<ul style="list-style-type: none"> プロの演奏を通して表現力を学んだが、実践にはなかなかつながらなかった。ア イ 男女別のグループ活動は有効的だった。音程が安定した場合、顔の筋肉を使った表現の工夫につながった。イ

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について （全学年）</p> <p>ロイロノート（学習支援アプリ）の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの歌唱の録画【重点：個別・協働】 曲の情景に対するイメージづくりの共有【重点：個別・協働】 記譜の支援【重点：個別】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について （全学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートの活用 合唱記録用紙の活用
---	--

